

Rotary

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Serve To Change Lives



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 倉 井 章

幹 事 渡 邊 和 裕

会報・雑誌委員長 原 賢一

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2925号 2021年9月28日(晴れ) 第12回例会 会員数113名

オンライン例会

点 鐘 倉井 章会長
司 会 副SAA 山下会員

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

※マスクを着用し、心の中で斉唱



ビジター紹介 渡邊和裕幹事

◇来訪ロータリアン

1名(1クラブ) 累計26,581名

卓話講師 RI第2550地区 友地区代表

小林 勇一郎様(真岡RC)



会長挨拶 倉井 章会長

会員の皆様、こんにちは。昨日の発表では、東京都は154名の感染者で、3月22日以来半年ぶりの100人台とのことです。栃木県は20人が感染したと発表しております。政府は今月30日で全地域の緊急事態宣言を解除する方針を固めたようです。解除後のお酒の解禁など今までの反動が気になるところですが、来月からはface to faceでの会場での例会が実施できそうです。当分の間、宣言前と同じように、会場は学校形式、食事はお弁当の用意とし、感染拡大防止対策をしっかり取りながらハイブリッド例会での開催に戻れそうです。皆様のご出席、よろしくごお願い致します。

先週の22日に、宇都宮東ローターアクト例会にZoomでの参加を致しました。先週、RACの盛合会長の話にもあったタキヤプロジェクトの空き店舗の元酒屋(タキヤ)の会場とオンラインでのハイブリッド例会でした。カンボジアの学習支援、タキヤプロジェクト、児童養護施設 養徳園の支援活動の3つのプロジェクトの経過状況の報告と、今後の活動計画を話し合っておりました。今後もいろいろな方面でのRAC支援を行なっていき

と考えておりますので、ご理解、ご協力をお願い致します。また、昨年から実施していますバンバ広場共同清掃奉仕活動を、今年も11月7日(日)に実施したいと思います。昨年は、我がクラブ提唱の宇都宮東RAC、作新学院大学RAC、宇商マーキュリー IAC、青少年奉仕委員会での共同奉仕活動でしたが、今年は社会奉仕委員会も協働で参加することとしました。宇都宮を象徴する二荒山神社境内とバンバ広場の清掃活動を、提唱3アクトクラブ会員と共に行ない、ロータリーファミリーの結束を図りたいと考えております。多くの会員の皆様のご参加、宜しくごお願い致します。

話は変わりますが、今日はワインのエチケット(ワインのラベルのこと)についてお話したいと思います。ワインと言えばフランスですが、有名なワインの産地として挙げられるのが、ロマネコンティで有名なブルゴーニュとボルドーです。ボルドー地方メドック地区のシャトーを、1855年ナポレオン3世がパリ万博出品の為ボルドーワインの格付けを命じ、1級から5級まで61シャトーが決められ、今日までこの格付けは変わっておりません。1級に位置する「五大シャトー」は世界的にも高い評価を得ています。「五大シャトー」とは「シャトー・オー・ブリオン」「シャトー・ラトゥール」「シャトー・ラフィット・ロートシルト」「シャトー・マルゴー」「シャトー・ムートン・ロートシルト」の5つのワインの事をいいます。

「シャトー・ムートン・ロートシルト」は、メドック格付けの唯一の例外として、第2級から第1級へと、1973年格上げされたワインとして知られています。非常に商業的にも成功していますが、その理由として真っ先に挙げられるのが、エチケットをコレクターズ・アイテム化させたことです。1945年以降、毎年異なる画家に絵を依頼して、それをラベル・デザインに用いるようにして

おり、欧州ではミロ、ピカソ、シャガール、ダリ、コクトー、米国ではウォーホール、マザーウエル、ジョン・ヒューストンといった大家が描いています。「ムートンのためなら」と、皆、喜んで引き受けたそうですが、日本人初登場（1979年）の堂本尚郎画伯は、その名誉が最初理解出来ず「なぜ私がワインのラベルを描かなければならないのか？」と言ったそうです。日本人としてはもう一人、セツコ・バルティス（旧姓・出田節子）がおります。ワイン自体は、ムートンは、豪華で華麗とされています。また、シャトー自体がワイン博物館となり、人気の観光スポットになっています。毎年違うエチケットということで、多くのムートンを味わいエチケット収集をしたいのですが、1本の価格が数万円から十数万円するので、月に1本飲むというわけにはいかないのが残念です。



先週『ロータリーの友』のお話を致しましたが、本日は友地区代表委員の小林勇一郎様をお招きし、ロータリーの友月間に因んだ卓話をお願いしております。小林様、よろしくお願ひ致します。

幹事報告

渡邊和裕幹事

- ◇石田ガバナーより義援金の報告と御礼あり
- ・熱海豪雨災害義援金 第2550地区41クラブより 合計1,600,000円を送金。9月22日、第2620地区（静岡・山梨）から全地区からの寄付総額が合計70,279,328円との報告有り。
- ・佐賀・長崎豪雨災害義援金 第2550地区43クラブより 合計1,600,000円を送金。

「3分間スピーチ」

副幹事 中山靖之会員

皆さん、こんにちは。副幹事の中山です。今日は、簡単な自己紹介と本を読む事が好きなのでお薦めの本をご紹介します。



私は那須烏山市で建設業を営んでおります。なぜ、宇都宮のロータリークラブに入っているのかと知っている方もいらっしゃると思

ますが、私の父が以前、こちらのロータリーにお世話になっていた関係です。

私は1973年生まれで、那須烏山市（当時の南那須）の小中学校を卒業しました。宇都宮の高校に進学し、地元の大学に入学、農業経済を専攻しました。学生時代は、高校の時にラグビーがなかったもので、どうしてもラグビーがやりたくて体育会ラグビー部に入部しました。初心者ということもあり、4年間、とても厳しかったのですが、人生の中で良い思い出になっております。

卒業後は父が建設業をやっていたので、地元の建設会社に入りましたがどうにもやる気がおきず、たまたまあるご縁で某政治家の事務所に入ることになりました。その後14年間、秘書として主に東京でしたが、活動することになりました。その間、マスコミ対応等をよくやったのですが、貴重な経験をすることができました。

本についてですが、私の恩師である平川克美先生が書いた『株式会社の世界史』をお薦めいたします。会社を経営される方が多いと思いますので、是非一度ご覧になっていただければ勉強になると思います。

※次回3分間スピーチは金田 剛会員

「ポール・ハリスとロータリー」動画鑑賞

— 第3章ポール・ハリスの沈思黙考（前半）—

※『ロータリーの友』HPのアニメーション動画配信より



卓話

「ロータリーの友について」

RI 第2550地区 友地区代表委員
小林 勇一郎 様



皆さん、こんにちは。本日は、卓話の時間をいただきありがとうございます。コロナ禍で例会を開いてないところも多く、卓話の依頼はこちらが最初です。9月は「ロータリーの友月間」ですが、この月間となってまだ5年位で、以前は「雑誌月間」でした。

2015-16年度から国際ロータリーの特別月間が変更になり、4月の「雑誌月間」がなくなりました。そのため、ロータリーの友委員会ならびに同理事会では、あらためて『ロータリーの友』について考える時間を作って下さい、という思いで9月を「ロータリーの友月間」と定めたようです。9月の「ロータリーの友月間」と10月の「米山月間」は日本独自の月間とのこと。今日は、2021-

22年度新企画、『友』の役割、『友』を読む・投稿する・活用する、ウェブサイト・電子版についてを中心にお話させていただきます。

- パワーポイントにて説明 -

1. 2021-22年度新企画

新しい企画として3つございます。一つ目は「ガイ散策」です。ガイ・ガンディカーは初めてロータリーの奉仕概念、クラブの運営のあり方を文章にして解説した方です。ロータリーが創立されて110年以上経ちましたが、基本とするところは変わっていません。そのロータリーの根幹を、鈴木一作パストガバナーが解説しています。新会員の方には良く読んでいただきたいと思っています。

二つ目は「すずちゃんの Just say cheese!」です。写真撮影の極意をフォトグラファーの鈴木知子さんが毎月テーマに沿って解説しています。ロータリーは広報も大事な仕事です。写真の撮り方を覚えて、ビジュアルイメージの向上にお役立てください。

三つ目は表紙です。昨年度に引続き、イラストレーターの五十嵐仁之さんの作品で、今年度は動物のこたわぎシリーズになっています。たとえば、8月号は「石橋をたたいて渡る」、9月号は「虎穴に入らずんば虎子を得ず」です。毎号、表紙のメッセージを楽しんでいただければと思います。

2. 『友』の役割

『友』には二つの役割があります。一つは、日本のロータリーの会員が親睦を深めるための会報誌としての役割です。『ロータリーの友』には表紙が二つあり、縦書き横書きに分かれています。日本のロータリーの会員が親睦を深めるためのコーナーは、主に縦書きに分類されており、ほとんどが会員の皆様の投稿から成り立っています。友愛広場(会員の旅行記・趣味等)、ロータリー・アット・ワーク(クラブや地区の活動)、短歌・俳句・川柳などのコーナー、イベントを告知する内外よろず案内もあり、しっかりとご覧いただければと思います。『ロータリーの友』が創刊されたのも、当初は、日本のロータリークラブの数や会員が増えたため、共通の情報をシェアし、交流を図るためでしたが、その役割は今でも続いています。

二つ目として、国際ロータリーからの情報を伝える雑誌という重要な役割があります。国際ロータリーから指定された記事(RI 指定記事。マークがついている)として「RI 会長メッセージ」「2022年国際大会」「財団管理委員長からのメッセージ」が毎月掲載されています。その他の RI 指定記事もありますので、必ず読んでいただきたいと思っています。

3. 『友』を読む・投稿する・活用する

『友』は教科書ではありませんので、興味のあるところから開いていただければと思います。

- ・他の地区、クラブの活動を知ることができる
- ・国際ロータリーの方向性が分かる

(国際ロータリーの方針に沿って活動することが推奨されている)

- ・同じ趣味の友達が見つかるかも
- ・記録として残る

- ・ほかのクラブから連絡が来るかも!

(ロータリーの野球大会は『友』がきっかけ)

- ・クラブが元気になる

(投稿することで全国のクラブ、ロータリアンの目に触れ、親睦が生まれ、元気になる)

4. ウェブサイト・電子版について

現在『友』は印刷版と電子版を発行しています。毎月一日に最新号がアップされます。昨年度、2250地区で『友』に関するアンケートを実施しました。毎月読んでいる会員は約70%で、残り30%の会員は、毎月は読んでいない、という結果でした。読まない会員の理由としては「読む習慣がない」「時間の余裕がない」「業務が多忙」と、合わせて80%でした。雑誌が手元になくても、スマホやタブレットでちょっとした隙間時間を利用して読むことが出来ます。「新型コロナウイルスのため休会で雑誌を受け取れないが、電子版を活用している」という会員のお話も伺いました。電子版を開くにはIDとパスワードが必要です。各クラブの事務局にお尋ねいただければと思います。また、『友』への投稿はWebサイトから出来ます。

『ロータリーの友』にはロータリーに関する様々な情報が掲載されています。ロータリアンの活動や意見からなる雑誌です。『友』を読み、活用していただければと思います。奉仕活動をされたら、『友』に原稿と写真を送っていただければと思います。より良い『ロータリーの友』にするために、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

